



経鼻チューブや 胃瘻カテーテルの コネクタ形状が 変更になります。

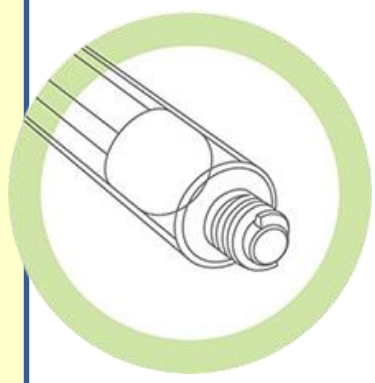
現在のコネクタ形状の製品は、
2021年11月末日までに
各社の出荷が終了します。

- ・ 経鼻チューブ
- ・ 胃瘻カテーテル
- ・ 投与セット
- ・ 注入器 など



- × 点滴（静注）に経腸栄養剤を誤って注入される
- × 点滴の薬を人工呼吸器につないでしまう

このような誤接続の事故を減らそうと、国際的な議論の末、異なる製品分野で嵌合不能となるようにコネクタの規定を行い、国際規格 ISO 80369シリーズが制定されました。これにより世界的なコネクタの形状変更が進められています。



栄養製品の新しいコネクタは、ISO 80369-3に適合しています。現行のコネクタと接続の向き（オスメス（凸凹））が変更されているのが特徴です。

【ご注意】

現在のコネクタとは接続できませんので、必要に応じて変換コネクタを準備してください。

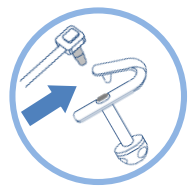
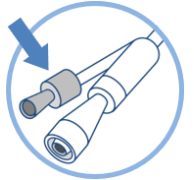
新しい栄養のコネクタと、 既存規格製品は接続できません※

対象製品

- ・経腸栄養用カテーテル
- ・経腸栄養投与セット
- ・経腸栄養用延長チューブ
- ・経腸栄養用活栓
- ・胃瘻用カテーテル
(PEGチューブ・ボタン)
- ・注入器 (栄養用)、等

対象外コネクタ

- ・バルーンインフレーションルーメンのコネクタ
- ・胃瘻用ボタンと接続する投与チューブのコネクタ



投与セット



注入器



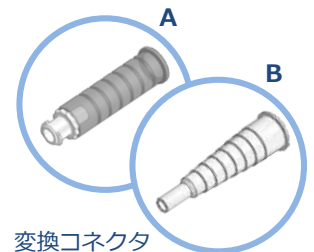
延長チューブ

新コネクタ (メス)



カテーテルを新コネクタの製品に切り替える場合、延長チューブや投与チューブ等も新コネクタのものに切り替える必要があります。

段階的な切替の場合は、チューブの接続に**変換コネクタ**が必要です。



変換コネクタ

カテーテル



新コネクタ (オス)



オスコネクタの内側に栄養剤の残渣が溜まることも考えられます。管理上、きれいにふき取るなど工夫も必要です。

皆様の声を聴きながら、患者さんケアの工夫や注意点等を検討してまいります。

※ 図は互いに接続する製品の組合せ例です。

※新規格製品の出荷開始時期は2019年12月以降の開始が望ましいと通知に記載されていますが、実際の開始時期は各企業で異なります。

【切替に関する情報は、MTJAPANホームページに随時掲載しています。】

<http://www.mtjapan.or.jp/jp/mtj/>